



# ShockLog 248

衝撃を記録するShockLogは、輸送・保管・操作中に特別な取り扱いが必要な品物・機器への危険を監視するために設計されています。

大きな固定物や移動中の機器・建造物・製品に対する衝撃を継続的に監視・記録します。これにより、衝撃を起こした責任は、輸送・荷扱い・保管・操作中のいずれにあるのかを特定することが出来ます。

ShockLog248は、測定できる加速度の範囲・振動数のフィルタリング機能が限定されており、10g/40Hz、30g/90Hz、30g/90Hzの3タイプのいずれかからお選びいただけます。

尚、本体に温度センサーが内蔵されており、内部温度の測定も可能です。また、オプションのセンサー付の機種では、湿度も測定することができます。

**ShockLog248は、ShockWatch (SpotSee) による3方向軸の圧電型加速度計の技術と最新の電子工学・ソフトウェア技術を組み合わせた衝撃監視機器です。Windows準拠のソフトウェアにより、衝撃のデータ収集や記録されるセンサーデータを設定できます。**



## ShockLog 248のメリット

- 不適切な操作・荷扱いを視覚的に抑止
- 操作・輸送・荷扱い・保管時に生じる製品の破損に関するコストを削減
- 操作・輸送・荷扱いの過程での改善の余地をチェック
- いつ・どこでトラブルが発生したかを特定し、トラブル発生時の責任者を究明
- 操作・輸送・荷扱い・保管時の状況が適切であったかを確認
- 操作時・輸送過程のプロファイリング
- 破損の可能性及び検品の必要性を荷物到着時に受取人へ注意喚起

## 代表的な用途

- 輸送中の貨物の荷扱いを監視
- 製品保管時の監視
- 建造物の監視
- サプライチェーンの分析
- 梱包評価試験

## 特徴

- 本体内蔵の温度センサー（湿度センサーはオプション）
- 3方向軸の加速度計
- 完全自己完結式で、単3電池（1個）で稼動
- 約1年弱の電池寿命（リチウム電池使用時）
  - ※ リチウム電池・アルカリ電池ともに使用可能ですが、アルカリ電池の場合の電池寿命は約1ヶ月程度となります。また、アルカリ電池は温度変化に非常に弱いので、ShockLogではリチウム電池の使用を推奨します。
- 加速度を測定
- RF遮蔽及びCE認証済み
- 不正開封防止の為にパスワード設定
- アラーム閾値を調整可能
- LEDライトによる稼動状態・アラーム表示
- イベント（衝撃）発生時の詳細情報を記録
- 日付・時刻を記録
- 測定期間全体のデータを記録・表示
- 不揮発性メモリーにデータを保存

加速度の測定に基づき、衝撃と振動を監視するよう設計されています。保管または輸送中の衝撃・振動を記録し、高価な品物を保護します。設定したアラーム値を超えると、本体にデータを保存し、アラームライトが点灯して衝撃を感知したことを知らせます。しかし、ShockLog298と異なり、測定できる加速度の範囲・振動数のフィルタリング機能は、各機で1種類（工場出荷時設定）のみです。

<b>機器仕様</b>			
寸法	: 88 x 84 x 55 mm	作動温度範囲	: -40°C~+85°C
重量	: 450g		(精度: 最大± 2°C)
電源	: 単3電池 1個 (リチウム電池の使用を推奨)	加速度測定範囲	: 1種類 (工場出荷時設定) ※10g/30g/100g いずれかの機種を選択できます。
外装素材	: アルミニウム	アラーム閾値 (※248のみ)	: 測定範囲の11~95%
防水・防塵規格	: IP67	スケールファクター	: ±2%
		ダイナミックレンジ	: 100gに対して2.5mg
【オプション】 相対湿度測定範囲: 0~100%RH 測定精度: ±3%RH			

加速度測定範囲が10gの場合は40Hz、  
30gの場合は90Hz、100gの250Hzの  
周波数フィルターとなります。

**ご注文・お問い合わせの前に、下記注意事項をよくお読み下さい。**

※上記の加速度範囲の値が大きければ、測定・記録できる範囲が広いわけではありません。例えば、100gの機種を選択した場合、弱い衝撃への感度が弱くなり、それらが記録されなくなる恐れがあります。どのような大きさの衝撃を測定したいのかをお客様ご自身で把握して下さい。

※ご購入後に加速度範囲の変更は出来ません。予めお客様ご自身でどのような大きさの衝撃を測定したいのかを把握して下さい。加速度範囲の選択において、当社は責任を負いません。

※「○○の測定には何Gが必要か」「●●は何Gの衝撃で破損するか」といったご質問は、当社ではお答えできませんのでご了承下さい。

※ShockLogの記録内容を見るには、データをパソコンにダウンロードする必要があります。その際、USB接続ケーブル及び専用ソフトウェアが必要ですので、初めてShockLogをご利用の場合は必ずキットを購入して下さい。

※本体のみをご購入の場合は、電池・固定用治具は含まれますが、それ以外のソフトウェア・マニュアル等の付属品は一切含まれませんので、ご注意ください。

※湿度センサーは予め本体に取り付けられています。よって、湿度センサーのないタイプをご購入後に、湿度センサーを付け足すことは出来ません。湿度センサーをご要望の際は、新たに湿度センサー付のタイプをご購入下さい。

**免責条項：**第3者が作成したデータシートや情報に関する不正・不完全な情報については責任を負いません。製品は予告無しに変更されることがあります。製品のご注文の前に最新の情報を入手・確認して下さい。また、当社以外が販売する製品についてのお問合せはお断りいたします。製品の顧客サポートは、当社でご購入頂きましたお客様のみを対象としておりますので、ご了承下さい。

**SpotSee (ShockWatch) 社製品 日本 販売代理店**



**株式会社 プラントサービス**

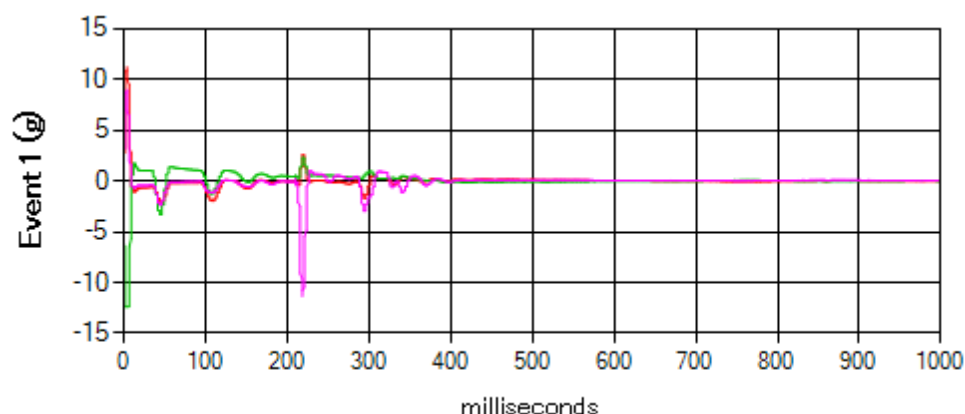
〒650-0031 神戸市中央区東町116-2 7F

TEL:078(334)0211-FAX:078(334)0210

E-Mail: [service@aps-jp.com](mailto:service@aps-jp.com)

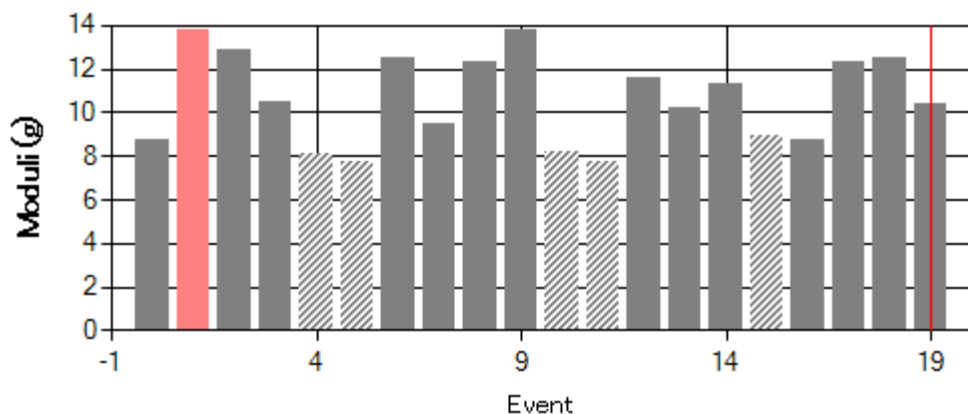
URL : <http://www.aps-jp.com/>

# Event グラフ記録における ShockLog298 と 248 の大きな違い



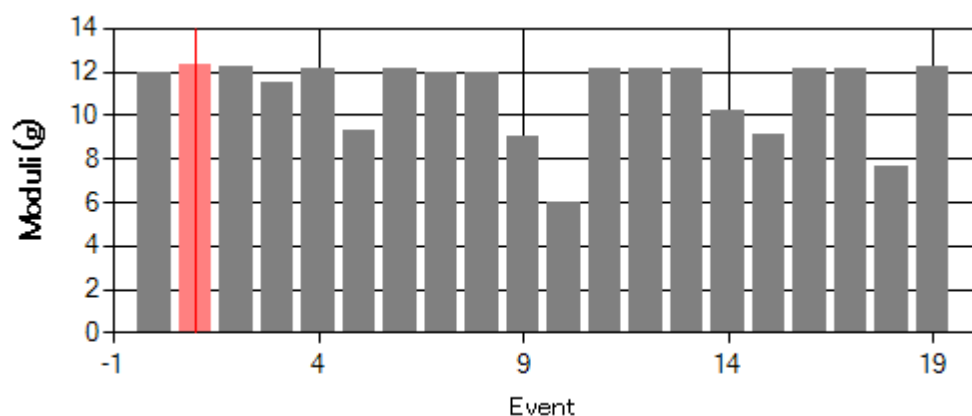
Event グラフ(左記)は、どの方向でどれくらいの大きさの衝撃があったかを詳細に記録したものです。閾値を超える衝撃があるたびに、左の Event グラフが記録されます。

## [ShockLog248 の場合]



248 はメモリー容量が少ないため、上記の Event グラフは最大 15 回分しか記録されません。例えば、15 回を超える衝撃があった場合、衝撃が大きいものから順にメモリーに保存され、小さいものの Event グラフは消去されます。左の事例では、斜線で示された衝撃の Event グラフが保存されずに消去されたこととなります。

## [ShockLog298 の場合]



一方、298 では最大 108 ~870 回(測定の設定により変動)までの Event グラフが記録可能です。測定期間中の Event データをより多く記録することが出来ます。